DL-Raw.Net

SEX
FANTASY
Cover Illustration
maco
Cover Design
Inako Yasushi[ERIDANUS]

その女は
別の部屋に
拘束しておけ
この男は私の部屋へ
話がある
殺すにしても
素直にしてれば
残酷なことはしない
わかったな！
わかったよ
ガバッ
あうっ
ちくしょう
リンといい感じ
だったのに
最後に
見とくか
ガシ
?
おとなしく
しろっ!!

maco
原作 鏡遊
キャラクター原案 しおこんぶ
第5話
セックス・ファンタジー
SEX FANTASY
DL-Raw.Net

maco
原作 鏡遊
キャラクター原案 しおこんぶ
セックス・ファンタジー
SEX FANTASY
2
DL-Raw.Net

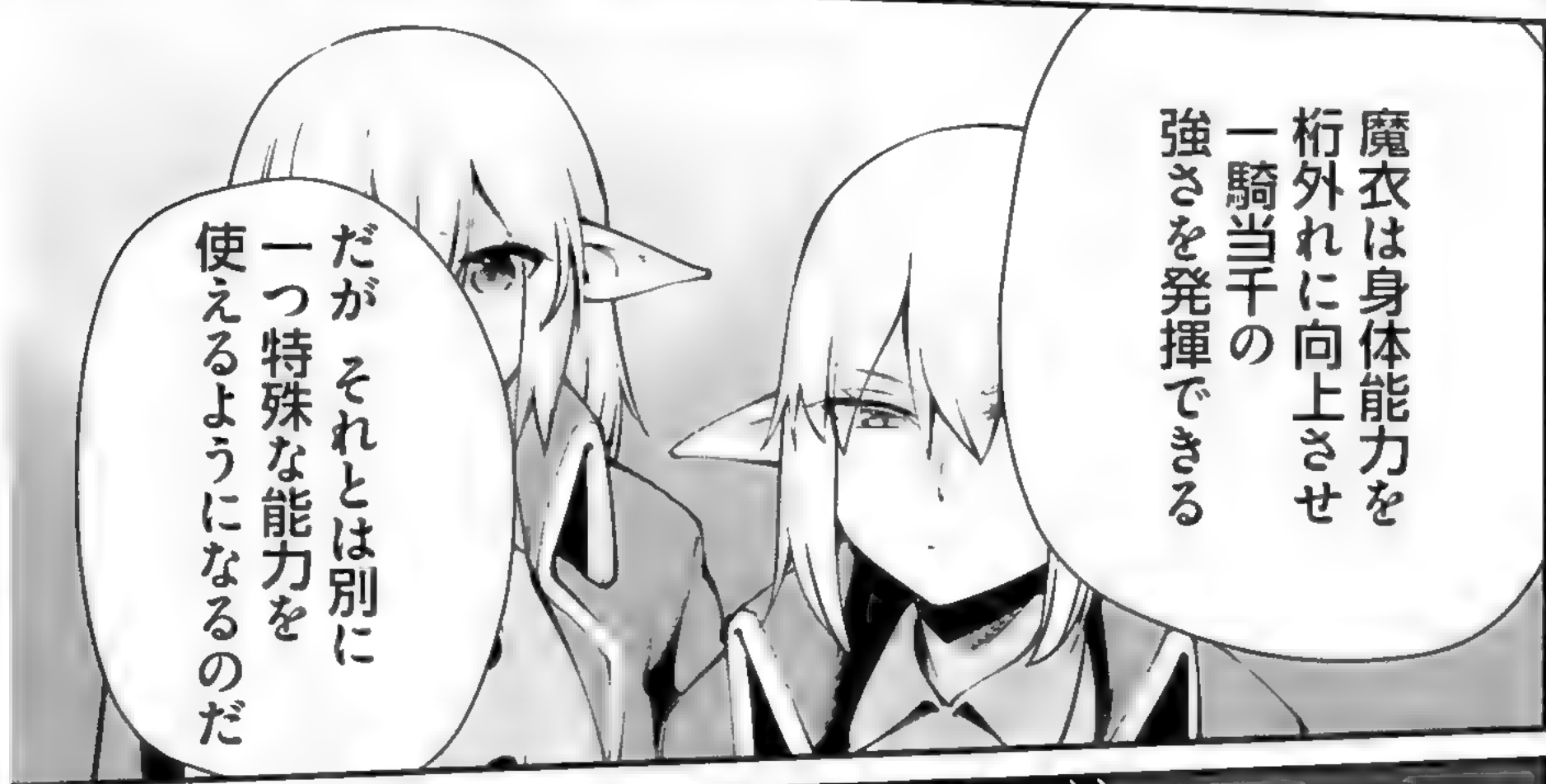
CONTENTS

私は今年
百十六歳になった
百十六…
わかっちゃいたけど
違和感がすごいな
人間にはわからんよ！
エルフは百歳を過ぎてようやく子供ではなくなったというところなのだ
子供ではないってつまり大人でもないってことか？

…似たような歳で
大人扱いされている
者もいる
だが！
どういうわけか
私は大人と思われてない
どういうわけか？
本気でわかってないん
だろうか？
どこから見ても
人間の年齢でいえば
十三・四歳
胸だけ異様に
突出してはいるが
少なくとも
大人とは言い難い

実年齢的には おそらく 今生きている 人間の誰よりも 年上だろうけど
私は十年ほど前に 魔衣姫に選ばれたのだ その時点で大人だろ？
少なくとも子供扱い されるいわれはない 許せん！

知っているぞ
アリーシャ姫との関係もな！
なんという爛れた関係だ！
ヤァ〜
まっ 毎晩っ
ベッドであんなことや
こんなことを！
あんなに… あんなことを…
俺とリーシャの関係は
ごく一部の人しか
知らない
特にリーシャの
寝室でのことは
誰も知らないと
思うんだが…
破透万里（クレヤボヤンス）
！

…ん？
なんだそりゃ？
あの姫の魔衣には
備わっていないものが
私にはある！
アティナの姫は
できそこないの
魔衣姫だ
…アリーシャに
ないもの？
魔衣は身体能力を
桁外れに向上させ
一騎当千の
強さを発揮できる
だが　それとは別に
一つ特殊な能力を
使えるようになるのだ
…つまり
キミの
能力は…

はるか遠くを見通す力ってわけか？
すまっ
すまっ
すまっ
すまっ
おお…察しがよい!? ばっ 馬鹿ではないのか？
無限とはいかないが隣国ぐらいなら壁を通してでも見ることができる
その能力欲しいっ！男の夢だろ
ていうか女の子が持ってても宝の持ち腐れじゃないか！
戦略にも戦術にも役に立つだろうが！
人の寝室も好きなだけ覗けるしな

そうそう
特にそなたとアリーシャ姫のは激しすぎて目が離せんかった
はぁーっ
一晩中むさぼるように求め合う男女などそうそういない
って何を言わせるか！
いや キミが勝手に全部吐いたんじゃないか
とっ とにかく…そなたはあの姫を屈服させているのだな
できそこないとはいえ魔衣姫男に組み敷かれるほど弱くはないはずだが…
いや あれは…そっか声は聞こえないのかあいつ可愛い声で甘えてくるからなぁ
むむ…

そ そんな話は
聞きたくない！
別に好きで
覗いていたわけじゃない
あくまで観察だ!!
見られて喜ぶ
変態の次は
覗いて喜ぶ
変態か…
おい！聞こえてるぞ！
誰が変態だ！
そなたに言われたくない！
返す言葉も
ないな
変態なのは
仕方ないとして…
名も無き英雄の
末裔…
本当におったとは
アリーシャ姫は
よく見つけ出したものだ
うん？
キミも俺を
捜してたのか？

魔衣姫に対抗できる
唯一の存在だからな
できれば味方にして
敵ならさっさと
叩き潰したい！
俺は
この世のすべての美少女に
愛を伝えたい…
ラクシアルだって
敵に回す理由なんて
一つもないよ
俺はアリーシャの
味方だけど
ラクシアルの敵って
わけじゃないぞ
え？
そうなのか？
愛？
アリーシャ姫を
裏切るというわけでは
ないんだな？

当たり前だろ
まだアリーシャを
抱き足りない
ガタッ
ふーっ
ふーっ
あっ あれだけ
毎日毎晩ヤッといて
足りないと!?
そなた
どこまで底無し
なんだ!?
それは
俺にとっても
長年の疑問だなぁ
そうか…
あくまでアリーシャ姫
から離れるつもりは
ないのか
となれば
すぅ
すぅ
ギッ
ギィ…
ギィ
ギィ…

――っ
おいおい
ギギギ…
ギギギギ
そなたは
少なくとも魔衣姫を
一人屈服させている
強引にでも
我がものになって
もらう
どちらかというと
俺がラクシアルを
自分のものにしたい
!?
カァ～ッ

ばっ ばばばば馬鹿を言うな！
縦にしたり横にしたり胸を縦横無尽に動かして あまつさえ服を脱がしたりもー!!
ドキッ
ドキッ
まさかそなたいやらしいことを私にもするつもりか!?
いまいち何を言ってんのかわからんけど
魔衣姫は戦乱を起こし戦乱を治めるために生きる者!!
いやらしく爛れた性生活などもってのほか！そもそもエルフは人間などと…まっ 交わらないっ!!
ドキ
ドキ
ハーフエルフっているんだろ？交わるどころか子供も作れるんじゃないか？

ええーい!!
もういい!!
我らの味方につかないなら排除するまで!
これが最後だぞ私だけの味方になれ!
味方になるのはいいけどアリーシャを裏切れない
俺はクズだけど女の子を裏切るマネだけは死んでもしない
だったら死ぬがいい
怖いなぁ
一人相手でも逃げられないのに・・・三人じゃ絶望的だな・・・
!?

そなた
すでに姫兵隊を堕としていた…!?
五人の部下のうち二人を!?
俺もバカじゃないし
死にたくないんで
できることは
やっとくさ
まさか我が力を
与えられた姫兵隊も
あっさり堕とすとは
なんていやらしい
能力なんだっ!

なんでもかんでもエロに繋げすぎじゃないか？
そなたには言われたくない！それにこちらには三人だけではないぞ！
あーそうだった
ラクシアルも加えて四人だな……
シード殿私たち二人ではあなたを逃がすのが精一杯です
ですが無用に残酷なマネはしませんお連れの少女は安らかに逝けるでしょう
気遣いはありがたいが
リンに死なれると困るんだよな

でもエルフの魔衣姫
キミもただ俺を
殺すつもりじゃ
ないんだろ？
こんなことしないで
さっさと殺してしまえば
済むことだしな
それで…
俺にどうしろと？
今後もキミが覗いて
楽しめるように
毎晩頑張れとか？
もっと激しく交わって
ほしいとか
希望を出したり…
そこそんな
はしたないこと
言うかっ
あっでも
有りなのか？
いや そういう
方式じゃないんで

じょ 冗談に決まっているだろうっ
そんなことよりエルフは残酷な仕打ちを好まない
そもそも戦を好まん！国境での牽制程度はしているが
本気だ、もんだな…
それも魔衣姫と姫兵隊に押しつけられたかたちだ
ずいぶんあけすけに話すなぁ俺がアリーシャのとこに戻ったら困るんじゃないか？
煮るも焼くも自由なそなたには何を教えても問題ない 私の性癖だって知られてもかまわんのだ!!
問題は天姫だ

天姫はいつ攻め込んできてもおかしくはないだが我らエルフは少数部隊だ
アティナを潰して戦力を吸収しないと頭数が足りない
マスディニアはアティナほどのんきじゃない皇宮の重要な部屋には私の視線を遮断する魔法がかけられている
ん？天姫の動向もキミなら見抜けるんじゃないのか？
ぐぬぬ…
まー それが当然な気がするけどな
見えん
それに天姫はここ半年ほど皇宮で姿を見かけない
どこかの砦にいるのかあるいは奴の魔衣の能力かもしれん
そういえばアティナも半年ほど前から天姫の動きをつかめてなかったたな
完全に何か企んでるよなぁ…ヤバい予感がしてならない
我らエルフは戦となれば戦場に立つがこの森を戦場にするのは論外だ

でも
マスディニアには
攻め込まないだろ？
そもそも私を含め
エルフは死ぬまで森を
出たくない者ばかりだ
そんなに
引きこもって
いたいのか…
戦乱を治めることが
使命だとは
わかっている
だが長老連中は
私を持ち上げて
都合よく使ってるだけだ
子供だからって
馬鹿にするなよ!!
子供じゃないんじゃ
なかったっけ？
そこで
そなただ
俺？
天姫を抑え込み
戦を回避する手段は
一つしかない
そなたが
天姫をものにして
しまうことだ

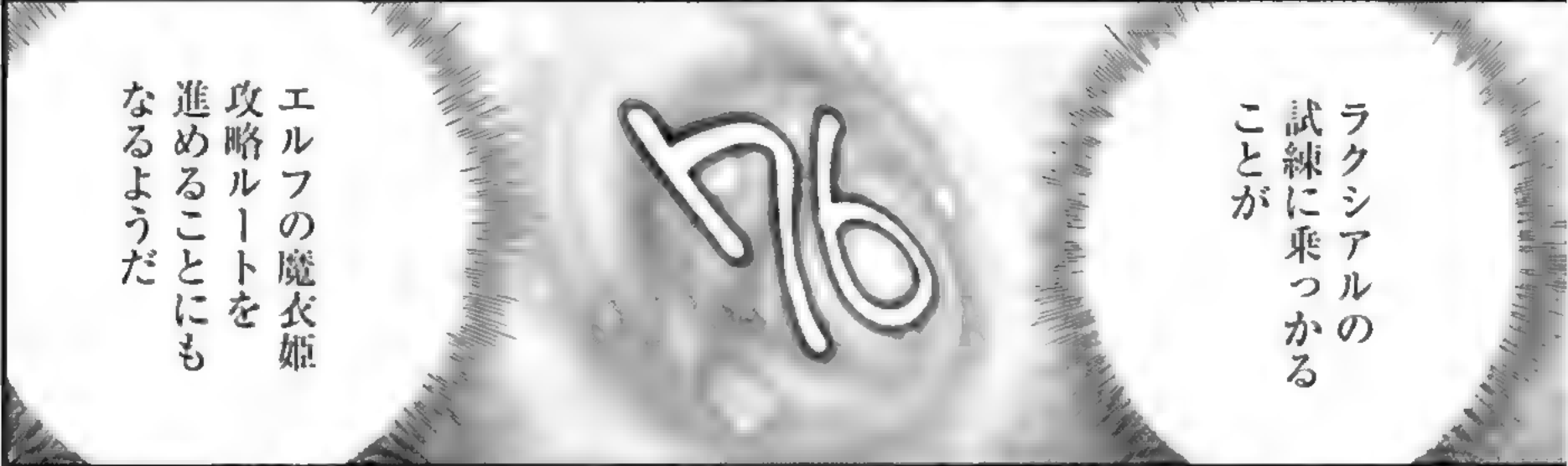
それができないなら
エルフも覚悟を決め
戦うしかない!!
結局は
そなたの能力の
真偽にかかって
くるのだ
俺の能力ねぇ…
現にキミの
忠実な部下二人を
寝返らせてるじゃ
ないか
それに
アリーシャとの関係は
わかってるんだろ?
天姫はものが
違う!
あんなチョロい
姫を堕とした
だけでは
証明にならん!!
えらい言われよう
だな アリーシャ姫

そなたは知らんだろう
あのチョロ姫
そなたとむさぼり合った
ベッドに顔をこすりつけて
うれしそうに
ニヤニヤ笑ってたぞ
スーーーッ♡
スーッ
ハーーッ♡
すごい事実だなっ!!
だから そなたに
能力を証明させ
役に立たなければ
処刑!
ビシッ
処刑!?
役に立つようなら
我がエルフの
客人として迎える
いやいや
その選択肢は
おかしくないか!?

私は本気だし
別に難しいことは
ない
攻略難易度は…
さっきから激しく
上下していて
ぜんぜんわからん
そなたはできることを
やればいい！
できなければ
死ぬが！
そなたが能力を
示してくれれば
それに
越したことはない
ひとごとだと
思って
私にとっても
最優先事項だ
…えーと
つまり？
今のところ
“覗きが趣味”“バカ”
くらいしか
情報もないしな…

ラクシアルを抱いて
屈服させろってこと…だよな？
ザッ
抱っ…
ちっ 違う！
私で試す必要はないっ！
ガッ
そっ そうではなく
私の姫兵隊が四十八名いる
歳も見た目も文句ないはず 無論
汚れなき女たちだ
このエルフたちを
身も心も
屈服させてみせろ！

…姫兵隊が相手だと
ドミネイション
魔性幻惑で
片付いちゃうぞ？
なでなで
ん♡
うちのエルフたちを
甘く見るな
身も心もと
言っただろう？
私の力を得た兵たちは
その代償として
私に従うことを
至上としているんだ！
どうだ！
すごいだろう!!
はぁ まぁ
すごいけど…
つーか
エルフさんたちは
それでいいのか？
我々はラクシアル殿の
望みのままに動くことが
何よりの喜び
ラクシアル殿が望むなら
あなたの能力の実験台に
なることも 楽しみで
仕方ないくらいです

ということだ
シード・ネーキス
そなたに七日間やる
ビシッ
その間に
四十八人すべてを
ものにしてみせろ！
これはエルフの
命運がかかった試練だ！
そなたも命を懸けて
やり遂げろ！
この展開も
馬鹿馬鹿
しくないか？
やっかましい
リンが捕まってるし
ラクシアルの弓矢から
逃げられるとも
思えない
あと
どうにも
気になる…

ラクシアルは
俺が姫兵隊を抱いてるところを覗きたいだけなんじゃないか？
あの変態…でもどのみち俺には選択肢はないか
外法の真眼にもはっきり表示されている
ラクシアルの試練に乗っかることが
エルフの魔衣姫攻略ルートを進めることにもなるようだ
まず手始めに…
三人の姫兵隊に魔性幻惑をかけて
俺のものにしておくか

セックス・ファンタジー
SEX FANTASY

SEX
FANTASY

第6話

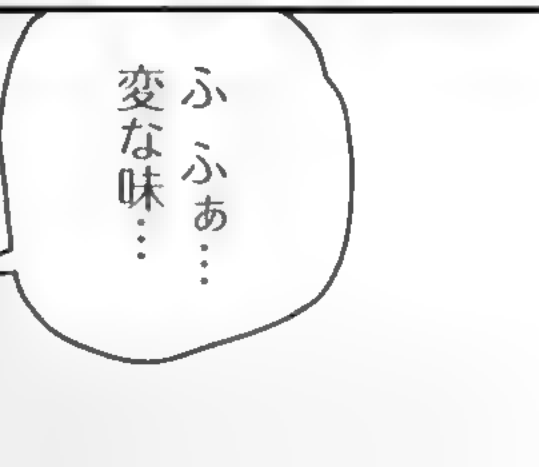
俺はしばらく
ラクシアルの住居を
使わせてもらう
こととなった
今日から
七日間で四十八人の
エルフの姫兵を
身も心も屈服させ
外法の有用性を
示さなければ
ならない
ラクシアル攻略ルートの
進行度は少しずつでは
あるが上昇している
俺の選択は
間違ってないはずだ
ま 俺にできることを
やるしかない
ふぁ〜
バッ
…んん?

おおはよう…ございます
おはよう…コて何をしてるんだ!?
ああなたが我々を屈服させなければならないように…
我々もあなたに屈服させていただくことが望みなのです
あなたに能力がなければ我々も困りますから…
は…?
なんだかやたらと丁寧な口調になってるし…
昨日は逆らったら殺すくらいの威圧感だったのに

こ こういうことは
初めてなのですが…
ラクシアル殿に
教わりました
カチャ
カチャ
カチャ
エルフは
めったに繁殖は
しないんじゃ？
は はい
ただラクシアル殿は
いろいろご存じなので
教わって…
……
ラ ラクシアル殿が
どの道を選ぶにしても
我ら姫兵は
ついていくだけです…
これは試練なんだから
抵抗するのが役目
なんじゃないのか？
!?

くっ 屈服はしません…
ですが！
すまっ
すまっ
すまっ
ゴソ
ゴソ
ラクシアル殿を
喜ばせることが
何よりの喜びなのです
ちょっと
待て！
もしかして
ラクシアルが覗いてるって
ことか!?
それでは
しっ 失礼します
パク
ーーっ
魔衣姫の力を
分け与えられる代償で
絶対の忠誠を
誓っていると
言ってたが…
本当にここまで
やるのか…
ちゅぱ
ちゅぱ

この白リボンの子の
攻略進行度は
もう5を切ってる！
もう何をしちゃっても
ぜんぜんかまわない
ってことだ
んおっちゅるぅ
んんっ!!
こんな感じで
いいんでしょうか…
ああ
ああ
俺はどちらかというと
自分でグイグイ
いきたいが…
でではは
続けます…
こうして
攻められるのも
嫌いじゃない！

こういうことは初めてなんだろうな動きがたどたどしい
でもだからこそ刺激がなんとも言えず気持ちよくてっ
んんっ…！でっ出るぞ…！
ドプッ
ドプッ
んっ
んっ
んふっ
ふ…ふぁ…変な味…
はぁ
はぁ
これが人間の…男の…

初めての子にいきなり飲ませるような鬼畜じゃないんだが
こ これからは私が起こしにきます…
別のエルフがいいなら交代もできますので…
そ そうなのか…
どこまで行き届いてるんだ俺へのご奉仕は
ラクシアルは試練とか言ってたがこれって俺のハーレムができたってだけなんじゃないか？
カチャ
カチャ
んん？

すーっ
えーと…
俺が昨日魔性幻惑で堕とした子の一人だ…
攻略難度は…5を切ってるな
この子はなんでここで寝てるんだ？
私とその子があなたの世話係兼監視役です
ですがまぁその子は…

その…どこからか
持ち込まれた書物を
読んだことが
あるそうです
そこに書かれていた
"夜這い"という
いうものに
興味があるのです
よ　夜這い？
エルフは
性的な知識が
あまりないので
刺激の強い
情報を見ると
影響されてしまう者も
少なくないんです
夜這い…
もう朝なん
だが
すー
すー
ピクッ
これはこれで
悪くないな！
じゃあ
ありがたく
いただくか！

ん…？
ぐちょ…
寝てるのにこんなに濡れたりするるか？
ええと…その子はあなたに襲われるのを期待して寝てるというか…
ああ説明されなくてもわかる
エルフってもっとお堅い種族だと思ってたが
がばっ
変わった子も多いんだなぁまっ なんでもいいや
遠慮なくいただこう♪
ピトッ

んっくっ…？
ズズ
これだけ濡れてれば
大丈夫だろうけど
痛かったら
言ってくれ
え？
あ ああ…はい
だいっじょうぶ
…です
あっ…んっ
んん…っ!!
ズプ
ズプ
ズプ
ズプッ
ズプ
はっあぁあっ
寝てるところを
襲われてる…
ズプ
ズプ
ズプ
んっ
あっ
ズプ
ズプ
本当に襲われ
ちゃった…
あああ！

初めて味わうエルフの膣内(ナカ)の気持ちよさといったらたまらないっ！
ビクッ
ビクッ
んっあぁ…
んんっ…
ッおお モノをぎゅッぎゅッと締めつけてくるッ
んっあっ ああんっ人間のがっ あっ
あっ
人間の男に…私貫かれてる…ああっ
ああああああっ!!
あっ
ビクッ
ビクッ
はぁぁ…
ビクッ
ビクッ

ムリヤ
ビクッ ビクッ
ビクッ
ビクッ
あ あの
ん…?
ドキ
ドキ
わ 我々は決して あなたに屈服 などしません…
ですから 私に何をしたって いいんです…よ
ニヤッ

ピクッ
ビクッ
ピクッ
ビクッ
ふー
結局二人とも二回戦ずつやったけどはっきりした変化はなかった…
ん～～っ
まだ屈服はさせられてないってことか…
二人の攻略進行度を完全に0にしなくちゃダメなのか？
リーシャですら0ではないんだよな
七日間で四十八人いくら俺でものんびりはしてられないな
…ん？
はっ!?
ビクッ

！
ズルッ
うきゃあああまっ
ドスッ
…ラクシアル
何をやってるんだ？
なっなんでもないっ
…あーそうか

やっぱり覗きを楽しんでたか
の覗きなどしない！
だっ だが…さ さっそく二人とお楽しみとはやはりとんでもない男だな!!
そんなに褒められても
エルフと人間の価値観は違うだろうがお前とは何もかもが違うみたいだな!!
だっ だがっ！これで終わりだと思うな!!
まだまだ私の忠実なエルフたちがそなたを襲うであろう！
なんだその予言
ふふんっ
エルフ姫兵たちを甘くみるなよ！尻軽なアリーシャとは違うのだから！
おい
！

多少は聞き流すつもりだったが
アリーシャへの罵倒が
あまり過ぎるようだと
俺も黙っては
いられないぞ
…なっ なんだと
お前に何ができると
いうんだ？
できるかできないか
じゃない
やるかやらないかだ
…そうだな
私たちは
誇り高き種族
ただ ほかの種族にも
誇りがあることを
忘れてしまう
他者のことを
考えられないのは
エルフの悪癖だ
そのエルフの中で
最強の魔衣姫が
ほかの種族の気持ちを
考えられるのは意外だな

エルフは誇りと
森での暮らしのことしか
頭にない　だから…
だからなんだ
ん？
だから
我ら以外のエルフたちは
人間と手を組むくらいなら
天姫と戦って
誇り高く死のうなどと
言い出すんだ
…そんなこと言ってるのか
でもエルフは
そういう種族なんだろ？
そんなのは長く生きた
長老たちや大人たちの
勝手な妄言だ！
若いエルフは死など
選びたくない！
俺への試練は
完全にラクシアルの
独断なのか？
我らエルフが生き残る
ための策だ！
死んでもいいなんて
考えてる奴らは
どうでもいい！

私は馬鹿なことだろうと
生き残るためなら
なんでもやる！
姫兵たちもそれで
納得してるから
そなたの試練に
参加することを
了承してくれたんだ!!
ああ　おかげで朝から
めっちゃ気持ち
よかったー
欲望丸出しの
発言は控えろ!!
まぁそなたの能力が
思った以上なのは
認める
こんなにも早く二人とも
身体を許してしまうとは…
それも朝から
あんなに激しく…
とにかく七日だ！
そなたの外法とやら
見せてもらおう
そうか
やっぱり
覗いてたのか
わ　私の家なんだ
から　どこで何を
しようと勝手だ!!

見せるのは外法というよりエルフたちとの性交（セックス）だけどな！
さわやかに言うな！私は巡回の仕事があるから行くぞ！
覗きと巡回を同時にするのか…さすが魔衣姫
ふふん 私ほどの魔衣姫ならそれくらいは軽いんだ
覗きは認めるのか
バカげてるってことはわかっていてそれでも俺の能力を見極めたいんだろう
リーシャと同じく正攻法ではどうにもならないから俺みたいな怪しげな男に頼るしかないと
となればまず美少女の期待には応えなきゃな

ふむ…
攻略進行度の数値を見る限り
すぐに抱ける子は半分…多いな！
エルフ姫兵たちはラクシアルを喜ばせたくてたまらないのか
…うーん どの子もいいな… まぁ全員もらっとこうか
!?
ドキッ
むちむちしたあの子からいただこうか

あ あうあう…
ちょ ちょっと本当に？
大人っぽい
外見に似合わず
むちむちさんは
純情なようだ
ラクシアルから
話は聞いて
るんだろ？
そ それは
わかっています
でっでも私は…
もじ
もじ
ヤァ〜〜ッ
だけど
そこが逆にそそる!!
やゃん
みんなに見られてる
せ せめて
物陰で…
そんなこと言って
自分から抱きついて
きてるし
はぁっ
はぁっ

チョロ…
っ!!
大人っぽいのに
チョロいところが
そそるな!!
おー抱き心地がいいし
おっぱいの柔らかさも
味も最高っ
カプッ
んっ
んんっ
グチュ
グチュ
んんっ
んっ
下も
たっぷりと
濡れてるっ

ぜっ絶対に
屈服はしない
…人間のなんかでっ
それじゃ遠慮なく
はうんっ…！
ズチュッ
ギュッ

うおおっ 痺れるくらい気持ちいいいっ
あんっ
あんっ
ズチュッ
ズチュッ
あっああぁあっ
ズチュ
ビクッ
ビクッ
っ！
んぷっ
んぷっ
ここんなのすごすぎて私…あああ
ビクッビクッ

はぁ むちむちさん
抱き心地 最高だなっ
はぁっ
はぁっ
こんないい身体の
女の子はそういないはず
この子は手放したく
ない…
ビクッ
ビクッ
ビクッ
俺の世話係だか
監視係になって
もらおう…
さてと
はぁっ
ふーっ
あと五人
いただくか
あぅ
んっ
あぁっ

ジュプ
チロ
チロ
ドキ
はむ♡
じゅぷっ
じゅぷっ
んっ

ごちそうさまでした
ふーっ
ビクッ
ビクッ
あう…
あ。
むちむちさんはユンカという名前らしい
ビクッ
あのあと二発ずつヤッたがユンカだけは五発もヤッてしまった
ビクッ
朝から出しまくったのにまだ止まらない
これもまた外法の技の一つどこまでも身体が応えてくれる
もみ
もみ
はっ はっ
はうんっ

でもまだ
0にならないいん
だよな
ピクッ
ピクッ
ん？
今なんか…
変な数値が
見えたような
ま いいか
だいぶ異常な
状況だしな
一度に多くの女の子を
狙いすぎて 外法にも
乱れがあるのかも
姫兵たちの数値も
ちょっと妙だしな
一日目の昼で
八人を魔性幻惑(ドミネイション)で
陥落
もみ
もみ
んっ
なかなか
いい調子だ

SEX FANTASY

一日目の昼で
八人いただいた
なかなか
いい調子だ
はーみんなよかったなぁ
特にユンカって子
あの子はよかった
あと四十人
とりあえず
いただかないとな
さぁ
ガンガン行くぞ
!
第7話
ニタァー

くっあぁっ
おっぱ…胸でこんなことっ
屈辱です…ですがこんな辱めを受けても
私たちは屈服なんてしません…！
柔らかいおっぱいと尖った乳首の刺激が
くりっ
くりっ
心地いい！
ふーっ
ふーっ
二発ずつたっぷりいただきました
さて次は…
ピクッ
ピクッ
ピクッ
ピクッ

見張り櫓か
砦のどこからでも見える場所でヤるのも面白そうだ
さっそく行くか！
おっ ユンカ
!?
あっあんっ
パンッ
パンッ
パンッ
あっあっ
パンッ
パンッ
っ出るぞ
もう一発っ
ビクッ
ビクッ
んっんっ
あんっあっ
ビクッ
ビクッ
パンッ

んっくっ あああっ わっ私の中 精液で ドロドロに…
あぁんっ!
ふー俺 ユンカ好き すぎるだろ
もう一発ヤリたいが ユンカも 休ませてやらないと いけないしな
ガザザ
ピクッ ピクッ
!
うーむ
!
ラクシアルほどでは ないが 小柄な子だな
あどけなさが 残ってるのも いい

グイッ
やっあんっ
ズブ
ズブッ
もう交代の時間なのに…
ああっ 行かなきゃいけないのに
仕事のところ悪いが…
あんっ
ラ ラクシアル殿…見てますか！ああっ お喜びが伝わって
ゾク
ゾク
ゾクッ
ゾクッ
あっんっ
幼い顔が可愛いすぎて止まらない
ああんっ 私の喜びも伝わってしまいますっ…！
ズプ
ズプ
ズプ
パチ
パチ
パチュ

もうっ
もうっ
ムリですっ
二回も中にっ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
あぁっ
三発目
行くぞっ
ドプッ
ドプッ
大丈…
あ…
あぁあんっ
ああんっあっ
さっきまでっ 私っ
処女だったのにっ
パンッ
パンッ
あぁっんっ

ホラ教えただろ？
ズルッ
ん
ちゅぱ
ちゅぱ
き綺麗になりましたよ
ちゅぱ
ちゅぱっ
ちゅぱ
ああっあっもう痛くないいっ
パン
パン
パン
パン
なっなんでこんなに気持ちいいの…!?
イキそうだっ！
パン
ヌプッ
パン
ふわっ!?
ズブブ
ドプッ
ドプッ
ドプッ
なっなんですか!?ああっあああああああっ!?
パン
なっなんで私の中に……わけがわかりません
ビクッ
ドプ
ビクッ
ビクッ
ドプ
ビクッ

うーん
十一人みんな
可愛くてエロかった…
ちゃぷ
ちゃぷ
でも誰も完全に
屈服はしてない
んだよなぁ
ちゃぷ
ちゃぷ
ちゃぷ
まだ手ぬるい
のか…
恐ろしい
ことを
言いますね

夕食をとったあと
ユンカを世話係兼
監視役にしてもらい
そのまま五人で
ヤリまくってたが…
ユンカさん
お口で一回
中に三回ですね
私なんてまだ
中に二回だけ
なのに…
どうも贔屓が
見えます 私
まだお口で二回
だけです
私は夜這い以外は
どうでもいいですが…
でも顔に一回
出されただけって
いうのはちょっと
納得いきません
わ 私は別に
贔屓されてる
わけでは…
あむっ
んんん…!

ああ
やっぱりユンカは
口の中もいいなっ
ドクッ
ドクッ
ドクッ
いつの間にか
エルフ同士で
嫉妬するようにまで
なってるぞ！
これは男として
うれしいような
クズが極まった
ような…
だが まだ一人も
0になっていないのが
気になるが
こんなものなのかも
しれない…
まだまだ
ヤるぞ
あんっ

んっ
おはようございます
ちゅぱ
えコ!?
おはよう…イキそうだ
ユンカ
だっ だからなんで私の中で…
ズプッ
ああっ
一晩たっても進行度1か
まあとりあえず
ヌポッ
うーむ…

はー
朝っぱらから
性欲が止まらない
エルフたちが
エロすぎる
からな
ん?
あのエルフ
可愛いな
ドドッ
よっと
ぎゃあっ!?
なっ 何を
してるんだ
そなたは!?
死ぬ気か!?
ああ ラクシアル
だったのか

いやぁ
死ぬ気になれば
なんでもできる
もんだな
可愛いエルフが
来たから
跳び乗っちゃったよ
めちゃくちゃだな
ろくに鍛えても
おらんくせに！
で どこへ
行くんだ？
そなたを砦の外へ
出したくないが…
邪魔だけは
するなよ！
…キミのほうこそ
一人で外へ出て
大丈夫なのか？
見た目が小さいからと
いって馬鹿にするなよ！
私の腕は誰よりも上だ！
コて!?
こらぁ！
どこを掴んでるんだ
どこを!?
いやでも
めっちゃ揺れてるから
ちゃんと掴まらないと
むぎゅっ
むぎゅ

くっ…振り落とされても助けないからな！
いた！この不届き者どもめ！私の目から逃れられると思うなよ！
振りほどかないのか……
どうやら本当に急いでるらしい…
!?
ははっ馬鹿な奴らだ！我らエルフは精霊たちと契約を結んでいる
飛び道具は我らには通用しない！

はー
なるほどな…
タラー
矢がかすって
いったぞ…
俺は守って
くれないのか…
いくら射っても
無駄だというのに
ええい 面倒くさい！
トン
うおっ!?
おっおい！
見ておけ
矢というものは
こうやって
射るのだ

なっ
なんだあれは⁉
本当にエルフ
なのか⁉
弓矢を使う
山猿じゃないのか⁉
ぎゃあぁっ
!?
ドスッ
ぐっ
ドスッ

ふん
マスディニアの
偵察兵たちか
マスディニア
……？
スタッ
旅人のような
格好をしているが
間違いない
矢の射ち方 体術
どれも
マスディニア流だ
クセを消そうと
しているようだが
私にはわかる
でもここは
マスディニアとの
国境からは遠いぞ？
アティナ経由だろう
マスディニアの兵は
かなりの数がアティナに
入り込んでいる

ふうん…アティナも舐められたもんだな
天姫がおとなしくてもマスディニアは常に動き続けている
黙って待っていたら我らが滅ぼされるのは必定なのだ……
一見バカのようにも思えるラクシアルだが滅亡を避けるために必死なんだな
しかし ここまでマスディニア対策に必死だとラクシアルを攻略するのは難しいかも
ラクシアルの進行度は…
んん?

ラクシアル!!
バッ
フッ
っ…!
なっ
っ!!!
ガキッ

――っ
貴様あっ!!
ちぃっ!
ザッ

ちっ 逃げ足の速い… 相当訓練されてるな あの女
…姿を消す マントか？ 珍しいものを 持っていたな
私の目でも 見抜けないとは 強力な魔法が かかってたようだな
まぁ 女でよかったよ 男だったら 気づかなかった
って 痛てて 実は女の子に 刺されたの 初めてなんだよな
それは意外だな
フラッ
あっ おい！
あれ？

どく…
だ…
ど…
ちっ 毒刃か！
大丈夫だ 毒消しもある！ ほら呑み込め！
まだそなたに死なれては困る！
っぐっ
むう もう呑み込む力もないのか
ずいぶん タチの悪い毒を使ってくれたな！
くっ 仕方ない！
…？

むちゅっ
も もう少しだな…んむっ
ピチュ
ピチョ
呑めっ
ゴクゴクッ
くちゅ
ゴクッゴクッ
ぷはっ

…おお すごいな
もう痺れが
取れてきた…
あ 当たり前だろう！
エルフの薬は
よく効くんだ!!
ギッ
むすっ
…ラ
ラクシアル殿が…
早くも
手を出してる!?
なコ!?
ち 違──う!!
こ これはあくまで
人命救助で！
キスとかそういう
のじゃないっ!!
ないんだー
──っ!!
…ちょうど
いいや
その
エルフ姫兵さんたち
まだ抱いて
なかったな
んん!?

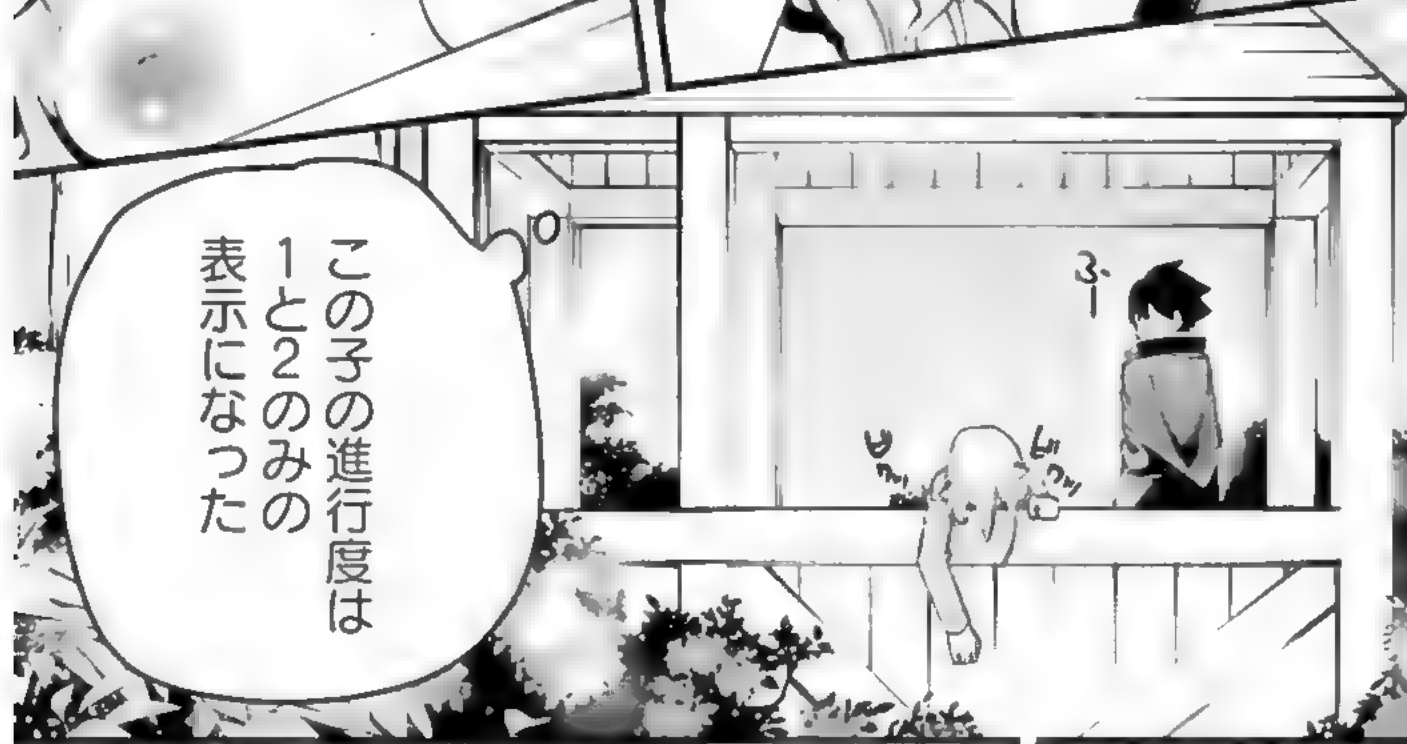
ちょっと待て
まだ寝てろ！
腕の傷もまだ…
大丈夫
俺には可愛い子が
一番の特効薬だから
ここの男…
ちょっと見直し
たのに…
ええい
私の前で
ヤるなよ！
それじゃ…
ヤっとくか
…!!
ギュッ
キュッ
あっ
んっ

さっきはらしくなく戦闘なんかに参加してしまった
まぁラクシアルの進行度が大きく進んだし
この二人の処女をいただけたからよしとするか
とはいえ もっと女の子を抱かないと落ち着かない
傷ももう大丈夫そうだし
エルフの薬すごいな
まずは昨日断念した見張り櫓に行くか

あうんっ んっ
痛たっ こんなのっ
ああっ みんなに
見られてるのにっ
あっダメぇっ…!!
パチュ
パチュパチュ
調子に乗って
三度もヤって
しまった
この子の進行度は
1と2のみの
表示になった
今さらすぎるけど
チョロい子ばかりだな
姫兵隊…
あっあっ…
ネーキス殿
おっ

んっあっあっ
んんっあっあっ
すすごっ…
パンパンパンパン
あっあああっ
本当はもう
数値が1の子は
放置して
ほかのエルフを
攻略すべき
なんだろう
でもなぁ 好きな子を好きな
ときに抱いてこそクズ人間
シード・ネーキスなんだよ！
使命があろうが
好きな子を大事に
できなくてどうする！
なんで急に
かっこいいことを？
というわけで
ユンカ もう一回
やらせてくれ！
あっ あぁんっ
そんなに強く
抱かれたら…っ
おぉおぉっ
おぉおぉっ

姫兵たちが泊まり込んでるのはここか？
はい…
ぐったり
じゃあ失礼して
ガチャッ

ネーキス殿♡
こっちも♡
まだ屈服されてませんっ

こうして時間は過ぎていき
三日目には四十八人のエルフ姫兵全員の処女をいただいた

SEX
FANTASY

第8話
ついに
七日目の朝
部屋に連れ込む
エルフも増え
部屋の壁まで
ぶち破って
毎日楽しんだ
白いリボンと三つ編みさん
新人姫兵の攻略進行度が
1になったのをきっかけに
ほかのエルフも
次々と1になり
すでに四十八名全員が
1まで下がっている
ただラクシアルが
言ってた
〝変化〟ってやつが
ないんだよなぁ…
そ そんなの
どうでもいい
ですから…
ちゅーしてください
ちゅー
どうでもよくは
ないんだよな!…
と言っても
誰も聞いていない

もはやエルフたちはひたすら俺に愛されることしか考えていない
だがあっさり進行度が1になったユンカすら
まだ0にはなっていないないし“変化”とやらも起きていない
甘♡
甘♡
シュコ
シュコ
シュコ
そろそろ“変化”がどういうものなのかラクシアルに訊いてみたいが…
偵察隊を倒した日から姿を見ていない
いったい何を考えてるんだ?
スゥーッ…
あんっ
グイッ

おーいっ ラクシアル！
見てるんだろ！
これどうなってるんだよ！
本当にエルフたちを
屈服させたら
何か起きるのか！？
！
当たり前だ！
いつだって…
いや ずっと
見ていた！
ト
ッ
あんな
ところに…
高いところと
落ちてくるのが
好きな奴だな…
スタ
だ…

だだだだだだ
だっ 黙って見ていれば 本当に本当にっ 好き放題やって くれたな！
私の姫兵隊が完全に そなた専用の愛人軍隊に なってしまったじゃ ないかっ!!
というか キミがそうしろって 言ったんだろ？
そコだコたーコ！ 私が悪いんだーコ！
やっぱり こいつ バカだな…
ああああああ もうどうしたら…
……
そういえば ラクシアルは見て喜ぶ タチだったな…

俺と姫兵たちの
アレをたっぷり見て
もう限界なんだろ？
そこ そそそそこ
そんなことは
なーいこ！
姫兵たちの快感まで
伝わってきてるから
そなたの前に
出られなかったとかっ
カッ
そんなことは
まったく
ないからな！
一から十まで
説明しちゃったよ
こいつ…
そ
それに…
あ あれが…
ただ死なれたら困る
というだけだったのに…
ぐぬぬ…
なんでこんなに
忘れられないのか…！
それじゃあ
口移しじゃなくて
ちゃんとしておくか
は!?

ちゅっ
ちょ ちょっ
んむむっ！
ちゅっ
ちゅっ
ちゅちゅっ
うーん やっぱり
この不思議なほどの
柔らかさが
たまらん
くちゅっ
ちゅっ
っふぁ！
っふぁー
い いきなり
何をっ…！
キミだって
この前いきなり
しただろ？
あ あれは
そなたを助けた
だけだ!!

も もういい…
どうせ今日一日で
全員を屈服させる
ことはできない！
だったら！
死ね!!
なにっ!?
ギギッ
カチャッ
こいつ本気だ
本気で俺をっ
そなたがいると
私は頭がおかしく
なってしまう！
ギギギッ
もうどうでもいい！
そなたさえ
いなくなれば！
もうそれ以上
私は望まない!!
私が勝手なのも
わかってる だがっ
待っ……
冗談だろっ!?
死んでくれ
シード殿!!

!?
ファサッ
ふう
やれやれ
何をやってんのよ
アンタは
お お前は!?
酒場の…ルー?

な なんだそなたは!?
なぜ私に気づかれずに
ここまで…!?
エルフの魔衣姫にも
見えないいものが
あるってことよ
本当は あたしの出番は
もう少しあとの
予定だったんだけど
面白いことしてたからね つい
まぜてもらいたく
なっちゃたわ
おおい
ルー
なによシード
そこまで驚かなくても
いいじゃない あたしと
アンタの仲でしょ?
さ 酒場の
ツケがまだ
残ってたのか!?
ツケの回収で
こんなところまで
こないわよ!!
ああ アンタと話してると
調子が狂うわ…
さっさと
やっちゃいますか
な なんだ!?
そなたは
いったい…
!?
スゥ…
ドス

!
ルーが消えて!?
サァ…
どっどうなってるんだ……これは魔法？
いや何か違う!?
俺の視界が真っ白になっていく…!?
っ!?

っ!!
!?
なんだここは？
さっきまで俺たち
確かに砦にいたよな？
…それは
そなたのほうが
知っているのでは
ないか？

あの女
そなたの知り合い
なのだろう
何者なのだ？
ツケの追い込みが
すごい
酒場のウェイトレス
だけど…
そんなわけ
なかろう！
これは結界だぞ！
しかも外部を遮断し
固有の空間を
創り上げている！
こんな強力な結界
エルフの大魔法使い
でも張れん！
何言ってるのか
わからないが
大丈夫か？
そなた魔法を
知らなすぎるな
これだから人間は…
私の目をもってしても
結界の外が見通せん
これほどの結界…
まさか……
なんだ
ルーの正体が
わかるのか？
いや…
さっぱり
わからん
役に立たない
魔衣姫だな

そんなこと どうでもいい 隔離されてちょうど いいくらいだ!!
俺 なんか したか?
そなたには言って やりたいことが 山ほどあるからな!
どの口が 言うのだ どの口が!
ギィッ
それ 怖いから やめてくれ ないかな
た 確かに 試練を与えたのは 私だ……
だが… だがしかーーし!
んん?
誰があんな濃厚な めくるめく官能の世界を 見せつけろと言った!
私の姫兵たちを なんだと 思っているのだ!!
みんなエロくて 可愛かったぞ つい俺も全力で可愛がり まくっちゃったよ
でも みんなも 嫌じゃなさそう だったし

そこが問題だ… みんな何をうれしそうに抱かれてるのか…
でも完全屈服まではしてないんだよ
訊きたかったんだけど〝変化〟が起きるとか嘘だったのか？
馬鹿を言うな！誇り高きエルフは嘘などつかん！
まぁ人間など騙しても心は痛まないがな
どっちなんだよ!?
今回は嘘をついてないということだ！
正直 私が見ていてもみんな完全にそなたに屈服したように見えた…どうなってるんだ？
俺が聞きたいよというかラクシアルが勝手に覗いてたんだろ
私が想像していたより濃厚な絡みを見せられた文句を言いたいんだ!!
なんて勝手な…

あと なんで
座ってるんだ？
何が起きるか
わからないんだし
立ってたほうが…
そ それは…
無理だ！
今立ったら…‼
ぐっしょり
ポタ
ポタ
…？
ぐっ
ぐっ
わっ
ち ちがう…
違うぞ‼

お　お漏らしじゃないっ
それは八十年くらい
前に卒業している！
八十年前って
三十六歳じゃ
ないか
エ　エルフの三十六は
人間の十歳くらいの
ものだ！
もじ
もじ
だっだって…そなたの
顔を見てしまったら
もう我慢できなく
なってしまった！
気を張っていたけれど
こんなところに
送り込まれて…驚いて
気が抜けたせいだ!!
愛液って
自分の意思で
止められ
るのかなぁ
あ　愛液…
あああ…でも私は
見られるのが
苦手だ……
誰に見られるか
わからない砦で
そなたに
迫るわけにも
いかない…
…うん

でもここなら
誰にも見られない
だったら…
俺はキミを抱きたい
き きっぱりと
言うんだな！
キミと会ったときから
抱きたいと
思ってたからなぁ
そ それはそなたの
桁外れな性欲の
せいだろう！
それだけじゃない
好きな女の子じゃ
なけりゃ抱かないよ
よ 四十八人も
姫兵を抱いておいて
よく言うな！
ぽろ
ぽろっ
ゴシゴシ
あ あうう…
止まらない…
み 見ないでくれ…

でも 見ながらじゃないとキミを抱けないだろ
だ 抱くのは確実なのか!?
これまでの姫兵たちとの性交がキミとの前戯みたいなもんじゃないか
前戯っ!?
あー そう言うと姫兵たちに失礼かな
でもまぁ準備万全なのは間違いないだろ?
そ それは…でも私そんなことは…
うお
!?
壁が鏡に変わった?
ルーめ…全部承知してるって感じだな
うう わぁぁぁ… こ これはまさか見られてるってことか!?
そういうことだろうなぁ

覗くのが好きなラクシアルだが自分だけは覗けない……
でもこれなら…馬鹿馬鹿しい状況だが…
…キ キスなら
え？
…！
キスだけなら…ゆ 許してやる
鏡が現れて興奮が高まっているらしい
それじゃお許しも出たことだし…
んっ…んむむっ
んっんんっ
こ こら そんなに何度もしていいなんて言ってなっ
んっ
あーこの唇柔らかい上に甘い味がする…！

はっはぁぁ…んっ んむむ…っ
ダメだって… んっダメ…！
そう言いながらも唇を押しつけてきてるぞっ
あ あああ… また止まらなくなってるっ ああんっ
もうこんなのはいてられない！
だら
だら
ダ ダメだ… キ キスだけだって言ってるだろ…！
まったく意地っ張りなエルフさんだ
もうとっくに我慢の限界を超えてるくせに…

ちょっ
おいっ…！
大丈夫 キス
だけだから
ちゅぱっ
ちゅぱっ
んっ…
そ そこは…！
ここも甘くて
美味しい…
なんでこんな味が
するんだろうな！
むぎゅ
むぎゅ
あっはぁっ…
そ そんなとこに
キス…するの
許してないっ…!!
ちゅぱっ
あっ ああっ
あんっ そんなに強く吸ったら…
あああああっ!!
んっ

くっ くうう…
そなたずるいぞ
そんなキス
されたら…
甘
甘
わ 私はもうダメだ…
もう我慢ができない！
実はこれを
ヤりたかったんだ
姫兵たちとは
一度もこれを
ヤらなかったんだよ
こ これって
…あああっ!?
ギュ
な なんだこれ…
こ こんなこと…アリーシャ姫
ともやってなかったぞ
ラクシアルと
ヤるために
取っておいたのかも
しれないな
クチュ
クチュッ
クチッ
うおおお…
おっぱいの
柔らかな感触が！
クチュッ

ふっ ああっ
私のおっぱい…
こんなに使われて…
ああっ
んっ
あっあぁ!?
こっこんな姿…
人間に私のおっぱいを
いいようにされて…
んっ
あっ
あんっ
くっ ヤバい
気持ちよすぎて…
ラクシアル出すぞ
!
あぁぁあああっ
あー
夢が叶った
うう
顔がべたべた…
ゴシ
ゴシ
これが精液な
のか…
え?
グイッ

ちゅぱ
ちゅ
ちゅっ
んっ…!?
んっんむむ…んっ
んん…ちゅっんん
ふーエルフは
唇の形もいいし
弾力もあって
柔らかいなぁ
ぷはっ
はーっ
はーっ
そ そんな感想は
いらない…!
唇も胸も好き放題
してくれて……!
さっそくで悪いけど
こっちも好きに
させてもらおうかな
なっ
それじゃ…
行くぞ
う…
あああ
ピトッ
ヌプ
ヌププッ

ううっ…くっ
痛っ…
あああっ
ああああ
ああああ
ズプ
ズプッ
私の処女…
奪われた…
奪われたのか…
ああ ちゃんと
いただいたよ
すげー
気持ちいい
そ そうなのか?
私の中ちゃんと
気持ちいいのか?
気持ちいいに
決まってるだろ
中はたっぷり濡れ
てるし 動かしても
いいか?
し 仕方ない…
そなたが魔衣姫を
屈服させられる
のか……
私も確かめて
みたい…!
そんじゃ
行ってみようか
ズプ
んっ
ズプ

ズプ
んっあっ
奥まで来てる
あんっダメぇっ…
こんな
恥ずかしい
姿…！
ズプ
じゃあ
もうちょっと
恥ずかしくするか
ふえっ
ズプ
あんっ
ズプ
ズプ
ズプズプ
あっあっあっあぁあっ
んっんくっ
恥ずかしいっ
私のこんな淫らな姿
見たくないっ…
やだぁ…
ズンズン
ラクシアル 本当に
気持ちよすぎて
すぐにでも出そうだ
ズブッ
ズブブ
ズン
…っ

もももういい…
わ 私の真名は…
ラシールだ
その名前で私を呼んで！
ラシールって呼びながら
私を奥まで貫いて…！
あ ああ…ラシール
最後まで行くぞ…！
ずぶっ
ずぶっ
はぁん…あんっ
奥にっ 奥に来てる！
あああぁあっ！
も もう行くぞ…
ラシール お前の
一番奥に出すぞ…！
あぁぁあっ
出されるっ
出されちゃう
あ
あんっ
あぁっ
あぁぁ

あぁぁっ
あぁあああっ
ああっ

あっあっ
あああ…
甘き♡
はぁ♡
わ 私のあそこから…
どろどろしたのが…
犯されちゃった
犯したとは
人間きの悪い…
ご ごめん…でも
犯されたって
言ったほうが
燃えるんだ
そ
そうなのか…
はぁ
ラシール…
これでもう
屈服したってことで
いいのかな?
…わからない
でも…もうちょっと
確めてみたくなった
……
ドキ
ドキ

……
それじゃ もうちょっとやるか …ラシール
やっぱり ラクシアルと 呼んでくれ こっちのほうが 気に入ってるんだ
真名は そなただけが 知っていれば それでいい…
それじゃ
んっ
あぁ…やっと
俺のものに できた…かな?
ズプッ
ズプッ
お♡
シード殿…
あっ♡
ズプッ!

セックス・ファンタジー
SEX FANTASY

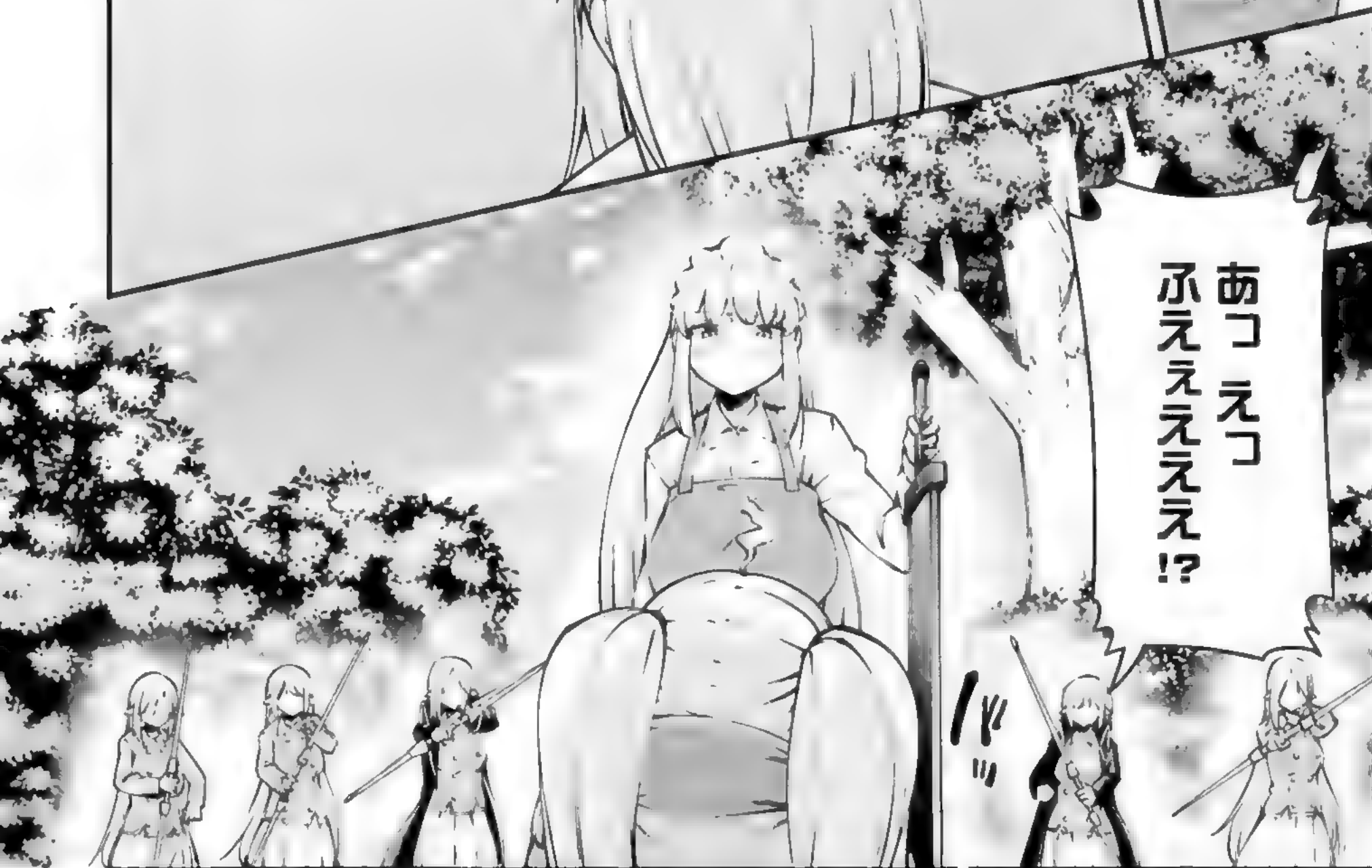
SEX FANTASY

第9話

ぷるんっ
はぁ… まったく そなたムチャクチャばかりして…
ここまで求められるとは思ってなかった そなたは その…
大人っぽいのが好みだと……
ん？ あー… ユンカとのあれこれも全部見られてたんだったな
でもラクシアルはラクシアル ユンカはユンカだ
そ そうだとしても… やっぱりユンカだと気になるというか…
もじ もじ
どうしてそこまで？ ほかのエルフだって…
あれ？ 聞いてないのか？

ユンカは私の姉だぞ
姉!?
ああ それも双子の姉だ生まれたときから一緒なんだ
……
双子どころか姉妹にも見えない
共通点は…胸が大きいくらいしか？
だからその…ユンカとは特に絆が強くて…快感はほとんど伝わってしまうんだ…
そ そういうことだったのかいくらなんでも準備万全すぎると思ったら…

ん？ それじゃあ ここでのラクシアルの感覚もユンカに…？
いや この結界内からは伝わらないだろう というか そうでなくては困る…
何をしてるのか伝わったら私は死ぬしかなくなる…
そ そこまでなのか…
快感が伝わらないうちにもっとヤっておくか
まっ まだヤるのか!? いったいもう何回
あんっ！
しょ しょうがない奴だな
じゃあ今度は私が上になって…
ぬぷ
！
ピシ

パーッ
あーっ
もう限界よ！
これ以上
見てられないわ！
パーッ
パーッ
あっ えっ
ふえええええ!?
バッ
みんな顔が
真っ赤だな…
あ
これは
もしかして…
そうよ

あんたたちがいた部屋はこっちからは硝子みたいに透けて見えたの
ルー お前…
というわけでシードとラクシアル姫のあれこれは全部見えてたわ
ぜぜぜぜ全部だとっ…!
素直になれないエルフ様のためのイタズラだったんだけど……
思った以上に衝撃的なものが見られたわね
お前…そんなことのために…だいたいなんで追い出されもせずにこんなとこにいるんだ ルー!
あたしを殺したり傷つけたりしたら二人とも結界から出られなくなるからよ
カァ～…
といってもみんな魔衣姫の痴態には興味津々だったけどね
そなたラ一コ!?
姫兵たち…特にユンカがばつの悪そうな顔をしているのが…なんとも…
妹の初体験とか全部見ちゃったんだろうなぁ…
!
あっ…っ
もじ
もじ

きゃああっ!?
ふっ 服が…!?
これって…
そうか これが姫兵の
〝変化〟ってやつなのか
そうだ 姫兵が
完全に屈服すると
屈服させた相手の
願う姿に変わってしまう
この色気過剰な
意匠はいかにも
シード殿が
好みそうだろう…
なるほど確かに!
この肌色の多さは
素晴らしい!

私も知らなかったが
どうやら魔衣姫の私も
屈服しなければ
いけなかったようだ…
いいや私は別に
堕ちてないが！
だがもう
そんなことは
どうでもいい…
プル
プル
あんな姿を
見られてしまったら
もう死ぬしか…
私はこれ以上
生き恥は晒せん！
落ちつけ！
そ それより ルー
説明してくれよ
あんたも全部
見られたのは
同じなのに
落ち着いたもんね
まったく…
あぁやっと
化粧を落とせる
黒髪…？
いやそれだけじゃ
ない…？

うちの家に伝わってる秘術なんだけどあまりお肌によくないのよね
ファサッ
やっとすっきりした
おおお…？
あれは…天姫です！マスディニアの皇女エルソフィア・ディーヴァスですよ！
いやそんなことより…ルーが天姫？まさかそんな…
ていうかシード様！
シュタッ
！リンどこから…

リンのこと忘れてたよね！ほったらかしだったよね！
ギュッ
その話はあとだ それより本当に…あれが天姫なのか？
こっちは必死で脱出してきたのに…
本当だよ リンはマスディニアに潜入して天姫の顔を見てるの
あーあ かっこよく名乗りを上げようって思ってたのに
でもその通り あたしが…我こそがマスディニア帝国第六皇女にして皇位継承権第一位
エルソフィア・ルーナ・ディーヴァスである
どすんと腹の底まで響くような声だな…
……てっ

すげえ可愛い！
ルーも可愛かったけど
それ以上じゃないか！
えっ なに
天姫も抱いて
いいのか？
いいわけあるかっ！
状況をわきまえよ！
ガッ
姫兵隊
構えー!!
最大出力
風を纏いて放て！
天姫が何を
考えてるのか知らんが
ここで終わらせるぞ!!
ギギギ
ギギギ
ギギギ
ギギ…

エルフの魔法…
思ったほどでも
ないわね
〝魔造箱庭〟
クラフトボックス
っ…!!

これがあたしの
魔衣姫としての能力
〝魔造箱庭〟
頭に思い描いた建築物を
瞬時に実体化できる
もう体験済みだから
わかるわよね
シード？
女の子を連れ込める
部屋がいつでも
作れるってことか
しかも絶対に
邪魔は入らないとか
…さすがシード
この状況でも
馬鹿を言うわね
さっきとは逆に
外側を鏡にする
ことで周囲の景色に
溶け込むこともできるの
どこだろうが
侵入は簡単よ
あはっ あたし
ってばすごい
本当に便利な能力だな…
女の子に近づいて
引きずり込めると…
俺も欲しいい!!

馬鹿シード！あなたは下がっていてください！
！
天姫は私が！
アリーシャ!?
キィィーーーン！

今しかない！天姫は一人ここで倒せば
アティナは救われます！
そんな簡単な話でもないと思うわよ？
ガキャンッ
突然のお出ましねアリーシャ姫
どこから湧いて出たのかしら？
ガキィンッ
あなたに言われたくありません！もちろんシードを捜していたんです！
ガッ
ガッ
何日も戻ってこないんですから…！

やっと見つけたと思ったら
まさかあなたまでいるとは！
あはは もしかしてあたしを討つ好機とか思ってる？
バカね しょせんあなたはできそこないの魔衣姫！
!?

これが
真の魔衣よ
きゃっ!!
ガキィン
ズザァァァァァァ
あなたの
不完全な魔衣では
あたしに勝てないわ

下がってろ
アティナの魔衣姫！
ザッ
っ！
おいおい
弓矢使いが敵との
間合いを詰めて
どうするんだ!?
ここは私たち
エルフが守るべき
場所だ!!
忘れるな
私も魔衣を
纏ってるんだ
ギッ
条件が同じなら
人間がエルフに勝てるかっ！
バシュッ
器用なマネを
するわね！
キィン
キィン
キィン

眉間に口
首
心臓
右手
太もも
よくもまあ同時にこれだけ狙えるものね！
でもたかがエルフの矢くらい魔衣の能力を使うまでも
勝手に勝ち誇ってろ人間の姫！
そなたはエルフの魔弓を知らない！
なにをっ……ちぃっ！

くっ…！
天姫っ　覚悟！
確かに私の魔衣は
不完全です
なぜかこの魔衣は
私を完全には認めて
くれていないようです
おっと
今度はあんた？
そのせいで
布地も異様に
少ないですし…
それはいいこと
じゃないか！
シードは黙っていて
ください!!

能力もなく
姫兵隊も
持てません
あなたにも
負けない!!
だからこそっ
剣の腕なら!!
…っ!
ははそれが
あんたの本気?
意外とやるじゃない
さっきの奇襲のときに
本気で殺しにきてれば
よかったのに!

あんたの欠点は
真面目すぎることね！
まったく
そう思いますよ！
ですが 技術を磨けば
いくらでも強くなれる！
天姫 あなたは
強すぎるがために
緩みがあるのです！
なるほど勉強になったわ
確かに剣のお稽古なんて
大嫌いだったもの
ええい！
私のことも忘れるなっ!!

ガガッ
…っ!!
ズザァァ
きっちりリーシャを避けて天姫の急所だけを狙ってる…
即興の連携なのに着実に天姫を追い詰めているっ!!
ふうん あんたたちを舐めすぎていたかもね
アリーシャ あんたの剣の腕はあたしより上よ
ラクシアル あんたの弓も予想をはるかに超えてるわ

でもお笑いだわ！
その程度のことで
あたしを倒せると
思ってるの！
とまぁ
こんなものね
言っとくけど
まだまだぜんぜん
本気じゃないわよ？

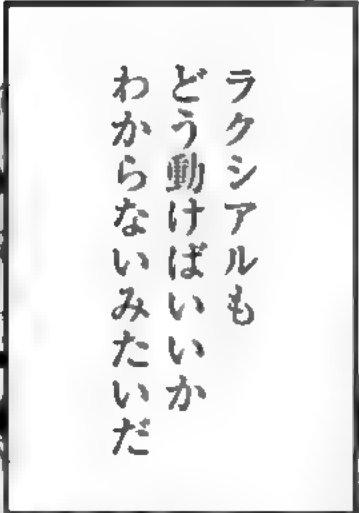
同じ魔衣を纏っていても
あたしは力の
次元が違うのよ
ラクシアル
あんたはまだ魔衣の力を
引き出しきれてないわ
くっ…！
それにアリーシャ
剣の腕が上でも
これだけ力の差があれば
関係ないわ
長年のお稽古
ご苦労様
て 天姫
あなたは…！
エルフの矢でも
できそこないの
魔衣姫の剣でも
あたしには
勝てないわ
ふ
ふざけるな！
我らの森に
入り込んできて
生きて帰れると
思ってるのか！
ギギギッ
いくら
お前の力が強大でも
森を封鎖して
援軍を──
無駄よ
エルフの魔衣姫

あたしは
ご覧の通り
地上最強の魔衣姫
でも
ス
あたしには驕りも
油断もないわ

さすがに
エルフ全員を相手に
一人で勝てるとは
思ってないしね

なんだとっ…!?
マスディニア兵…違う…
天姫の姫兵たちか!
おいっ
なんでこんな数の兵に
気づかなかったんだ?
おそらく天姫の力…
この前の襲撃者が
纏ってた 姿を隠す
マントだろう
その通りよ
もっとも姿を隠せる以外は
普通の兵と
変わらないけどね
うちの姫兵たちは
あなたの姫兵たちには
戦闘ではかなわない
でしょう
…一対一なら
という話だろう?
数が違いすぎる
そっちは…一万はいるな
ガタ
ガタ

一万…ラクシアルには
破透万里で全体が見えているんだろう
本当に天姫は桁が違いすぎる…！
一万のマスディニア兵がアティナとエルフ連合の国境地帯にいるなんて…
マントを一万用意して潜入訓練も必要だったかしら
こっちも大変だったわよ？
エルフの魔衣姫の目もごまかせたしこれならどの国でも潜り込めるわね
なんて…ことだ！
マスディニアがそんな作戦を動かしてたなんて…
とまぁこういうわけで抵抗は無駄ってことはわかったかしら？

ふふ
それじゃあ
終わらせるわよ
アリーシャまで
現れたのは
意外だったけど
おかげで面倒が
まとめて片付くわ
くっ タダでは
やられません！
その程度の
台詞しか言えないの？
最後の言葉に
なるんだから
もう少しかっこいい
ことを言っておけば？

天姫のほうは
どこまでも余裕だ
ラクシアルも
どう動けばいいか
わからないみたいだ
もちろん
エルフ姫兵も…
…しょうがないなまったく
俺は荒事には
向かないんだがな
！
なによシード
一万の敵にもビビらずに
ノコノコ出てこられたのは
たいしたものだけど
あなたに
何ができるの？

さぁな
でもアリーシャと
ラクシアルの危機を
黙って見てるのは
俺の主義に
合わないんでね
あはははっ この期に及んでも
そんなことを言うの!?
さっすがシード
そういうところが
面白いわ!
でもね アンタの力じゃ
そこの魔衣姫たちは
守れないわよ
ピ

悪いが俺は戦うつもりなんてない
戦う力もないけどな

俺には魔衣姫二人を圧倒する力も
一万の兵力もどうでもいい

敵とか味方とかそんな概念すらないからな

へぇ それじゃあアンタには何があるっていうの？

もちろん可愛い女の子のことしか頭にない！

俺にとって重要なのはそれだけだ！

…っこっ この男は…！

これだけの状況だっていうのに よくそんな呑気なことを言ってられるわね

慌てる必要なんてないだろ

わざわざ
美少女が俺に
会いに来て
くれたんだから
歓迎したい
くらいだ
……
へぇ

——TO BE CONTINUED.

SEX
FANTASY
エルフ部族連合の動向を探るため、
その本拠地である「妖精の森」に潜入したシード。
森を探索中、部下でポンコツ忍者のリンとの
お楽しみを始めるも、エルフに捕まってしまう——。
エルフの魔衣姫のラクシアルから、
七日間以内に四十八名のエルフたちを堕とさなければ処刑、
そう告げられたシードは欲望全開でエルフたちを抱き始める。
時間切れが先か、エルフハーレムの完成が先か、
生死を賭けた戦いの行方は!?
セックス・ファンタジー
SEX FANTASY

SEX
FANTASY

SEX
FANTASY
セックス・ファンタジー
SEX FANTASY
2
maco
原作 鏡遊
キャラクター原案 しおこんぶ

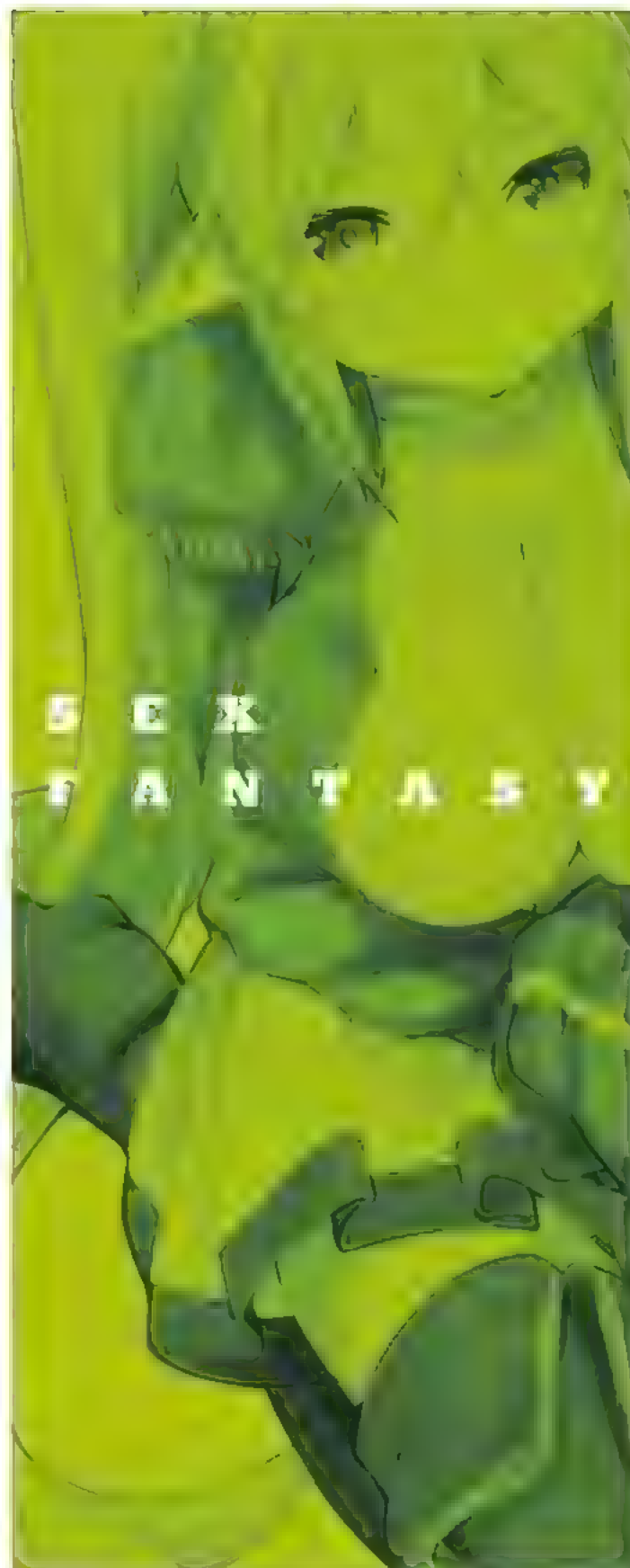
SEX

FANTASY

2

鏡遊 原作

SEX FANTASY

2

セックスファンタジー 2

キャラクター原案 しおこんぶ

KADO

ヴァンプコミックス

セックス・ファンタジー　2

著者　maco
原作　鏡 遊（かがみ ゆう）
キャラクター原案　しおこんぶ

2022年5月6日　発行
ver.001

本電子書籍は下記にもとづいて制作しました
ヴァンプコミックス『セックス・ファンタジー　2』
2022年5月6日　初版発行

発行者　青柳昌行
発行　株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡ
https://www.kadokawa.co.jp/
編集企画　アライブ編集部

●お問い合わせ
https://www.kadokawa.co.jp/　（「お問い合わせ」へお進みください）
※内容によっては、お答えできない場合があります。
※サポートは日本国内のみとさせていただきます。
※Japanese text only

装幀・デザイン　稲子靖[ERIDANUS]

初出　ComicWalker2021年10月15日～2022年5月1日配信分